

室らうちの山はさきさき木枯尾也、  
 室の竹くげ不櫛の妙程う那、  
 携て来りてゆ中を登り初かひ和 きま  
 等なりて旅人屋のの目まう素 長尾  
 一敷とまの川もくもや和。 一戸  
 和まのく大夫まありの炭か ハク  
 南溪 南江 春登 玉之 松洲 常丸

大尾

天恩を乞ふ事なれば西谷子

窮故むを後くすしんま

甲やうり山坂もあし古群喜

物ぬれを思ひてかまをく

非道なりとまのれ百十午九里

やうあ風袖もはるありて

まかへ今たてくぬ後かむのむ

かゝるさか

毒事への流

年を友

七十五

寛永

年実の

極月